

沈黙と無言の哲学

〈語りえぬもの〉の語りえなさを語る

---

目次

## はじめに ..... 1

## 1 いくつもの〈語りえぬもの〉たち ..... 18

1-1 言語を成立させる前提としての言語の構造 ..... 18

1-1-1 段落構成 19

1-1-2 文の終止符 21

1-1-3 〈主語—述語〉関係 23

1-1-4 言葉の使用は言葉の説明に先立つ 24

1-2 〈もの・こと〉と〈ことば〉との区別 ..... 29

1-3 無・無我 ..... 32

1-3-1 無 33

1-3-2 無我 33

1-4 無知・忘却 ..... 35

1-4-1 言葉は二分する表現法 35

1-4-2 議論の土俵に乗ると、相対化される 37

1-4-3 自分を勘定に入れない 38

	1-5	思考のために無意識に用いられる非言語的道具……………	41
	1-5-1	無限の連言……………	42
	1-5-2	〈言葉の紡ぎ出し〉……………	43
2	それぞれの〈語りえぬもの〉の語りえなさ……………	59	
2-1	写す鏡は写されず……………	59	
2-2	言葉は言葉に過ぎないが、その一言が言えなくて……………	62	
2-2-1	ステッカとステイック……………	63	
2-2-2	〈引用符・下線・傍点〉オペレータ……………	65	
2-2-3	使用と言及の両立不可能性……………	65	
2-3	語つて逃す——言及からの逃亡……………	66	
2-3-1	無……………	67	
2-3-2	無我……………	68	
2-4	語つて無くす——言及ゆえの消滅……………	69	
2-4-1	無知…思考の倉庫に存在しないがゆえに……………	69	
2-4-2	忘却…短期記憶上の不在がゆえに……………	74	
2-4-3	言語行為が認知的な事実を更新させるがゆえに……………	77	

2-5	翻訳不能な脳内圧縮表現	80
3	言語の限界と背中合わせに語りえぬものと暮らす	88
3-1	眼鏡を見るには眼鏡を外さねばならない	88
3-2	お釈迦様の手の平からの逃亡?	92
3-3	生活様式の中で蘇生する無意味	99
3-4	沈黙と無言	102
4	How many 語りえぬものたち in Wittgenstein's <i>Tractatus</i> ?	107
4-1	〈無意味なもの〉と〈語りえぬもの〉	111
4-2	『論理的-哲学的論考』から〈語りえぬもの〉の候補をすべて列挙する	113
4-3	〈擬似命題を生むもの〉のクラス判定	117
4-3-1	擬似命題の種別によるクラス判定	120
4-3-2	黒崎の <i>zeigen</i> によるクラス判定	123
4-3-3	自我のクラス判定	130
4-4	クラス判定の結果	140

参考文献	159
おわりに	152